

令和3年度

成育医療分野における薬物療法等に係る
連携体制構築推進事業

小児在宅医療における薬物療法の多職種連携事業
報 告 書

令和4年3月

一般社団法人埼玉県薬剤師会

目 次

1	背景	3
2	目的	3
3	方法	3
4	結果	5
5	考察	14
6	今後の課題及び展開	14

1 背景

長期にわたり対応が必要な在宅医療を受ける小児患者は、入退院を繰り返す例が多い。

小児在宅患者への薬局薬剤師の介入が求められている中、入院中の情報や退院後の対応、入院までの情報などが病院、地域の診療所、薬局間での共有が進んでいない。薬薬連携を含む情報の共有ができる仕組みを構築する必要がある。

また、小児特有の医療の対応に慣れていない薬局薬剤師に対する研修等も新型コロナ感染症の影響もあり開催があまりされていない現状がある。

2 目的

医療機関との情報共有システムの構築をし、対応に慣れない薬局薬剤師のために小児特有の医療について研修を行い、小児在宅受入薬局数の増加をはかり、小児在宅患者の受入体制整備を目的とする。

3 方法

① 小児在宅医療における地域での医療機関－薬局間連携体制の構築

薬局薬剤師、病院薬剤師及び医師に、多職種連携ツール（MCS）の参加を促し、その活用導入により小児在宅医療に係る連携体制の構築を図るための検討会議（埼玉県薬剤師会）を実施し、モデル地区及び協力基幹病院を選定。連携会議を実施。

検討会議	令和3年10月21日
	令和3年11月25日
	令和4年1月17日
連携会議	令和3年12月3日
	令和3年12月15日
	令和4年1月17日

② 小児在宅医療研修会の開催（Web研修）

日時	令和4年2月11日（金・祝） 9：30～12：45
場所	Web配信（埼玉県薬剤師会 会議室）
対象	薬局薬剤師
内容	(1) 成育医療分野における薬物療法等に係る 連携体制構築推進事業について（10分） 埼玉県薬剤師会 常務理事 池田 里江子
	(2) 小児在宅医療の現状と問題点（60分） 子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田 院長 戸谷 剛
	(3) 小児薬物療法における注意点（60分） 明治薬科大学 教授 石川 洋一
	(4) 小児在宅医療に係わる訪問看護師の現状（20分） ひだかK&F 訪問看護ステーション 木之下 健太郎

(5) 小児在宅医療に係わる薬局薬剤師の現状 (30分)

サン&グリーン薬局 中根 直子

Webによるアンケート実施

	アンケート内容	研修会			回答内容
		前	直後	2ヶ月後	
Q1	あなたの薬剤師免許番号を教えてください。	○	○	○	※回答紐づけ用
Q2	あなた (またはおつとめの薬局) についてうかがいます				
1	性別	○	×	×	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
2	年齢	○	×	×	<input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上
3	薬剤師歴は何年ですか	○	×	×	<input type="checkbox"/> 5年未満 <input type="checkbox"/> 5~10年 <input type="checkbox"/> 11~15年 <input type="checkbox"/> 16~20年 <input type="checkbox"/> 21年以上
4	現在お勤めの薬局の薬剤師の人数は何人ですか (パート含む)	○	×	×	1~2人 3~5人 6~8人 9人以上
5	あなたの薬局の業務形態で一番あてはまるのはどれですか	○	×	×	門前薬局、面薬局、調剤併設型ドラッグストア、 その他
6	あなたは小児薬物療法認定薬剤師の認定を持っていますか	○	×	○	あり、なし
7	あなたは小児在宅医療の経験がありますか (調剤のみ、も含む)	○	×	○	経験あり (訪問を含む)、経験あり (訪問を含まない)、経験なし
8	お勤めの薬局には小児在宅医療の相談の掲示はしていますか	○	×	○	あり、なし
9	お勤めの薬局は小児在宅医療を行っていますか (調剤のみ、も含む)	○	×	○	経験あり (訪問を含む)、経験あり (訪問を含まない)、経験なし
Q3	お勤めの薬局で小児在宅医療を行っているとお答えした方にうかがいます				
1	小児在宅医療でどのような業務を行っていますか (複数可)	○	×	○	調剤、混注、相談対応、配送、訪問指導、その他
2	小児在宅医療で困難に感じることは何ですか (複数可)	○	×	○	人員配置、経営面、多職種との連携、患者・家族とのコミュニケーション、問題解決、服薬支援、医療機器の取り扱い、 その他
3	小児在宅医療で工夫をしていることは何ですか (複数可)	○	×	○	人員配置、配送方法、多職種との連携、患者・家族とのコミュニケーション、問題解決、服薬支援、医療機器の取り扱い、 その他
4	今後も小児在宅医療の受け入れ希望はありますか	○	×	○	ない1~ある5
Q4	お勤めの薬局で訪問を行っていない (調剤のみ) と回答した方にうかがいます				
1	訪問に取り組みなかった理由は何ですか? (複数回答可)	○	×	○	依頼がない、人員の不足、関心がない、収益が上がらない、経験不足、設備 (無菌調製など) がない、知識不足、その他
2	小児在宅医療でどのような業務を行っていますか (複数可)	○	×	○	調剤、混注、相談対応、その他
3	小児在宅医療で困難に感じることは何ですか (複数可)	○	×	○	人員配置、経営面、多職種との連携、患者・家族とのコミュニケーション、問題解決、服薬支援、医療機器の取り扱い、 その他 (その他⇒具体的に)
4	小児在宅医療で工夫をしていることは何ですか (複数可)	○	×	○	人員配置、配送方法、多職種との連携、患者・家族とのコミュニケーション、問題解決、服薬支援、医療機器の取り扱い、 その他 (その他⇒具体的に)
5	今後も小児在宅医療の受け入れ希望はありますか	○	×	○	ない1~ある5
Q5	お勤めの薬局で小児在宅医療を行っていない、または訪問を行っていないとお答えした方にうかがいます				
1	小児在宅医療に取り組みなかった理由は何ですか? (複数回答可)	○	×	○	依頼がない、人員の不足、関心がない、収益が上がらない、経験不足、設備 (無菌調製など) がない、知識不足、その他
2	小児在宅医療の受け入れ希望はありますか	○	×	○	ない1~ある5
Q6	研修会の評価				
1	小児在宅医療について学びたいと思っている	○	○	○	当てはまらない1~当てはまる5
2	小児薬物療法や小児在宅医療について学んでいる	○	×	○	当てはまらない1~当てはまる5
3	新たに研修会を受けようと思っている	×	○	○	当てはまらない1~当てはまる5
4	研修会の内容は理解できましたか				
4-1	講演1 小児在宅医療の現状と問題点について	×	○	×	理解できなかった1~理解できた5
4-2	講演2 小児の薬物療法における注意点について	×	○	×	理解できなかった1~理解できた5
4-3	講演3 小児在宅医療の訪問看護の現状	×	○	×	理解できなかった1~理解できた5
4-4	講演4 小児在宅医療に関わる薬局薬剤師の現状報告	×	○	×	理解できなかった1~理解できた5
5	今後の業務に活かせると思いますか				
5-1	講演1 小児在宅医療の現状と問題点について	×	○	×	活かせない1~活かせる5
5-2	講演2 小児の薬物療法における注意点について	×	○	×	活かせない1~活かせる5
5-3	講演3 小児在宅医療の訪問看護の現状	×	○	×	活かせない1~活かせる5
5-4	講演4 小児在宅医療に関わる薬局薬剤師の現状報告	×	○	×	活かせない1~活かせる5
6	研修会によって意識は変化しましたか				
6-1	前向きに取り組みたいと思う	×	○	×	当てはまらない1~当てはまる5
6-2	取組みに対して数居が下がったと思う	×	○	×	当てはまらない1~当てはまる5
6-3	薬剤師の関与が具体的に認識できた	×	○	×	当てはまらない1~当てはまる5
Q7	今後の小児在宅医療の研修会についてお聞きします				
1	今後の小児在宅医療の研修会で取り上げてほしい内容は何ですか	×	○	×	小児の薬物動態の発達変化について、小児における経腸栄養剤、経静脈栄養について 小児期の臨床検査値の違いについて、代表的な小児疾患に標準的な薬物療法について 小児在宅医療の症例報告 (困難事例)、その他
2	今回の研修会に対する意見 要望 感想	×	○	×	自由記載

4 結果

① 小児在宅医療における地域での医療機関－薬局間連携体制の構築

検討会議で選定した協力基幹病院（大学病院）と事業説明会議及び面談を繰り返したが、期間内でのMCS導入には至らなかった。

導入にあたって、管理者会議では賛同が得られたが、情報セキュリティ委員会での審議待ちの状態が続いている。

② 小児在宅医療研修会の開催（Web研修）

受講者数 258名

アンケート結果

1. 回答者数

- 1) 研修前アンケート：244件 ⇒221件（重複なし）
薬剤師免許番号重複データ：23件（解答終了時刻の遅い回答を選択）
- 2) 研修直後アンケート：228件 ⇒216件（重複なし）
薬剤師免許番号重複データ：12件（解答終了時刻の遅い回答を選択）
- 3) 研修前アンケートと研修直後アンケート両方回答した人数：194件

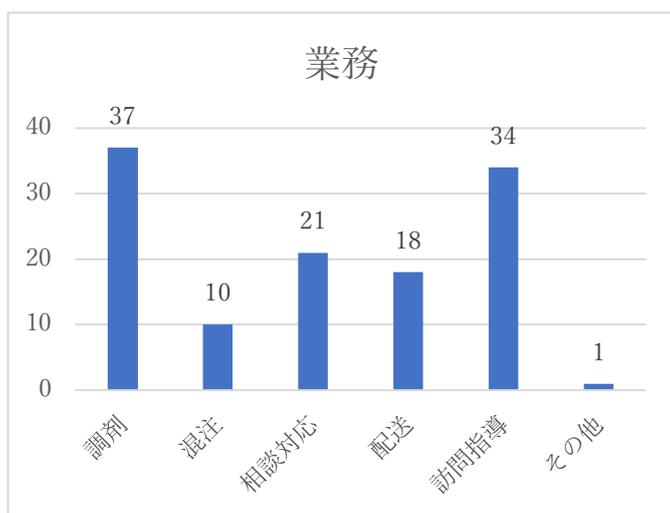
2. 回答者属性（ ）内：%

性別	男性	66 (34.0)
	女性	128 (66.0)
年齢	20代	25 (12.9)
	30代	40 (20.6)
	40代	43 (22.2)
	50代	54 (27.8)
	60代	27 (13.9)
	70代以上	5 (2.6)
薬剤師歴	5年未満	25 (12.9)
	5～10年	26 (13.4)
	11～15年	28 (14.4)
	16～20年	27 (13.9)
	21年以上	88 (45.4)
薬局の薬剤師人数	1～2人	35 (18.0)
	3～5人	86 (44.3)
	6～8人	41 (21.1)
	9人以上	32 (16.5)
薬局の業務形態	門前薬局	147 (75.8)
	面薬局	33 (17.0)
	調剤併設型ドラッグストア	9 (4.6)
	その他	5 (2.6)

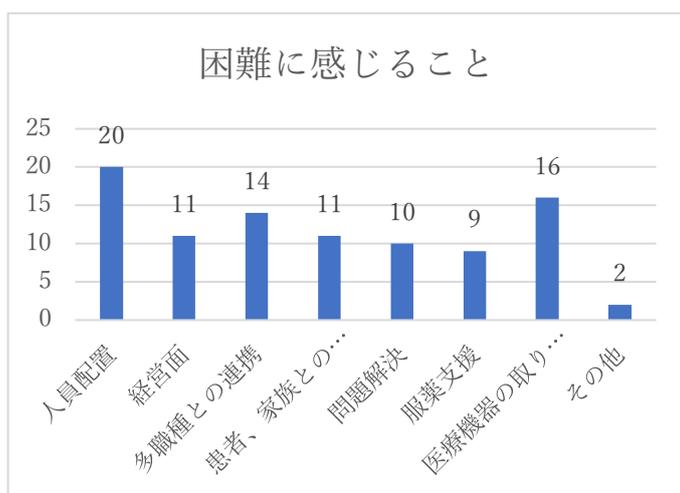
小児薬物療法認定の取得	あり	7 (3.6)
	なし	187 (96.4)
小児在宅医療の経験	あり（訪問を含む）	41 (21.1)
	あり（調剤のみ）	29 (14.9)
	なし	124 (64.0)
薬局の小児在宅医療の相談の掲示	あり	30 (15.5)
	なし	164 (84.5)
薬局の小児在宅医療への関与	あり（訪問を含む）	37 (19.1)
	あり（調剤のみ）	34 (17.5)
	なし	123 (63.4)

3. 薬局で**訪問を含む**小児在宅医療を行っている。(37名：19.1%)

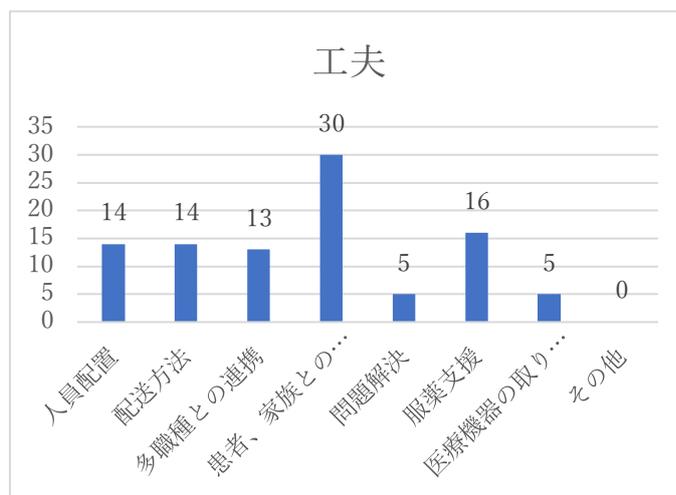
1) 業務内容



2) 困難に感じること

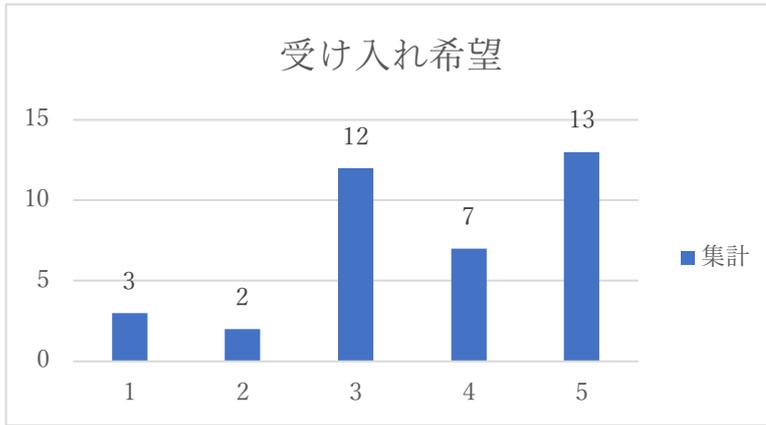


3) 工夫していること



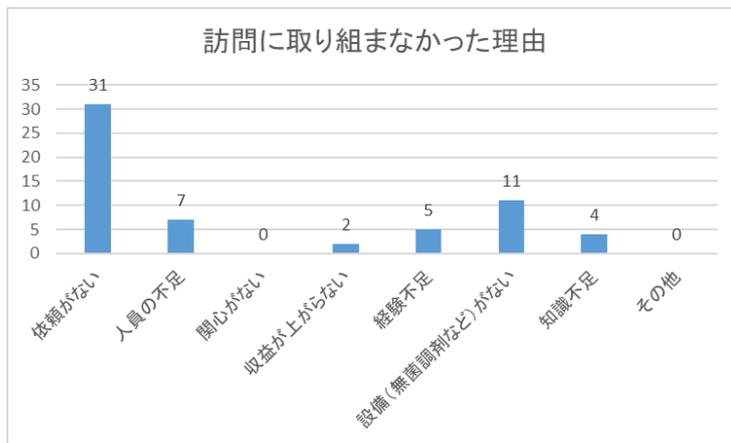
人員配置、経営面、多職種との連携、患者（家族とのコミュニケーション）、問題解決、服薬支援、医療機器（の取扱い）、その他

4) 今後の小児在宅受け入れ希望 (1. ない~5. ある)

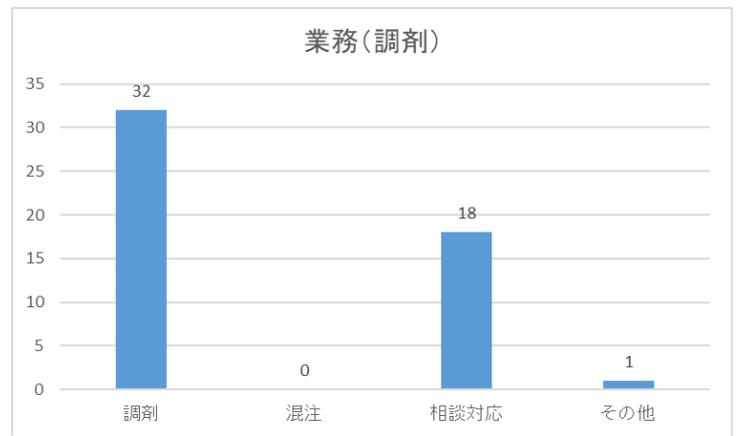


4. 薬局で調剤のみ小児在宅医療に関与している。(34名:17.5%)

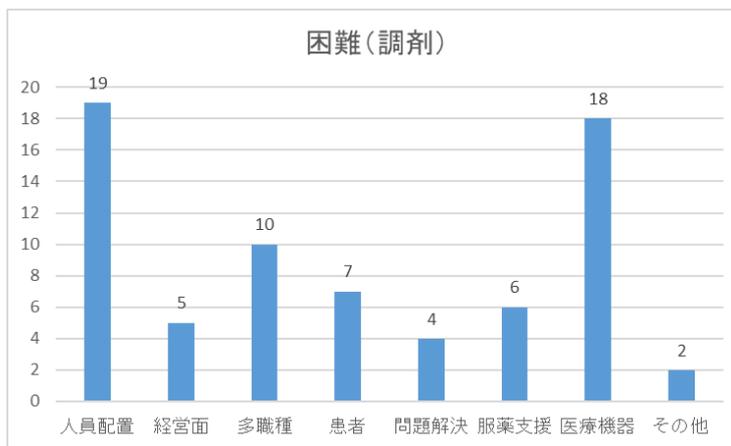
1) 訪問に取り組まなかった理由



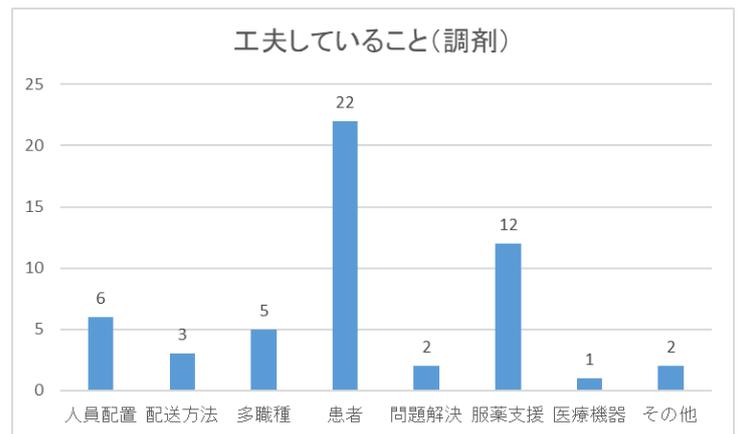
2) 業務内容



3) 困難に感じること

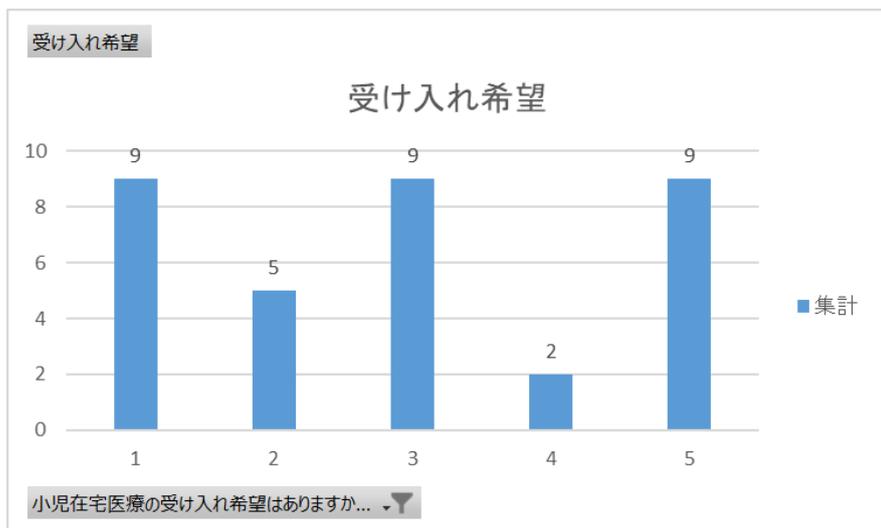


4) 工夫していること



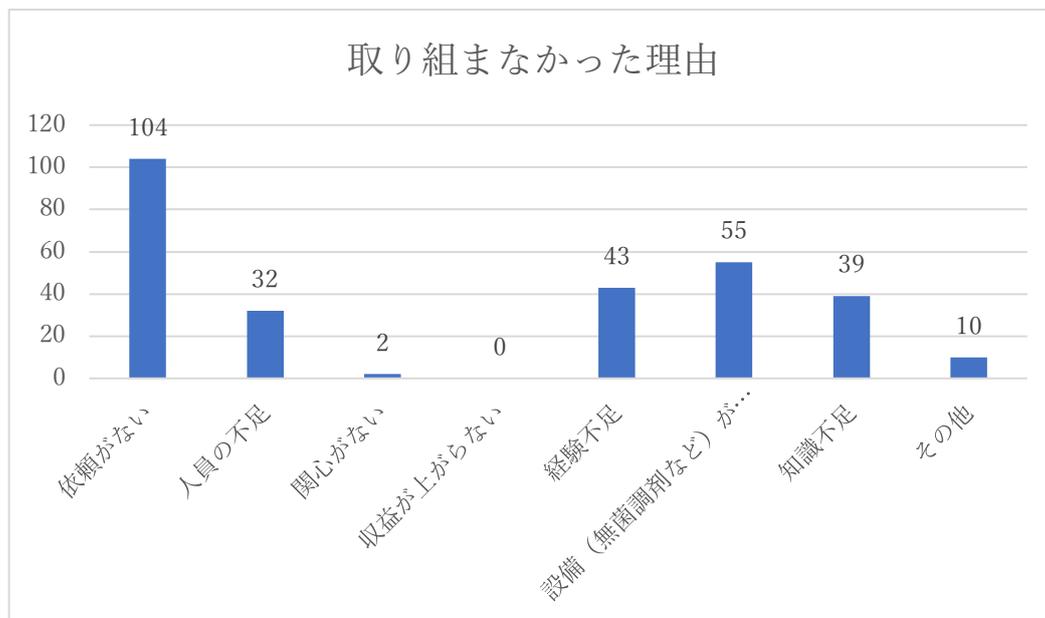
人員配置、経営面、多職種 (との連携)、患者 (家族とのコミュニケーション)、問題解決、服薬支援、医療機器 (の取扱い)、その他

5) 今後の小児在宅受け入れ希望 (1. ない~5. ある)

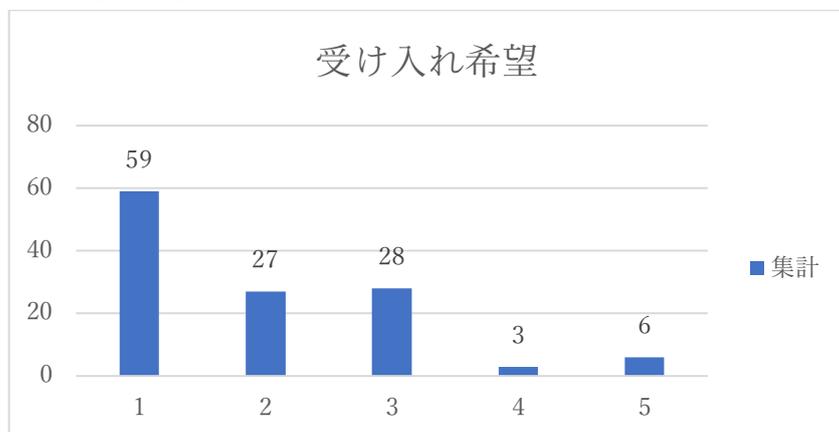


5. 薬局で小児在宅医療に**関与していない**。(123名: 63.4%)

1) 小児在宅医療に取り組まなかった理由

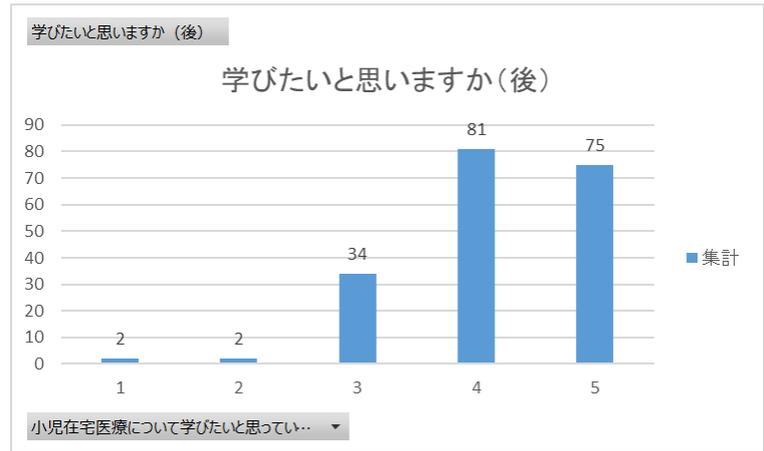
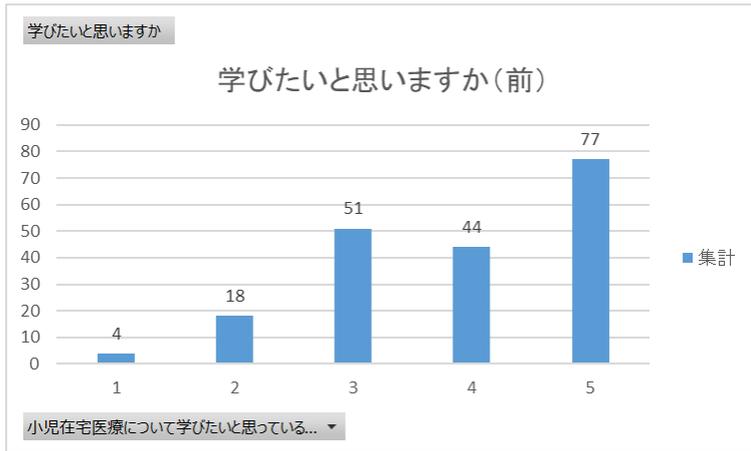


2) 今後の小児在宅受け入れ希望 (1. ない~5. ある)



6. 研修会の評価 (回答者全体)

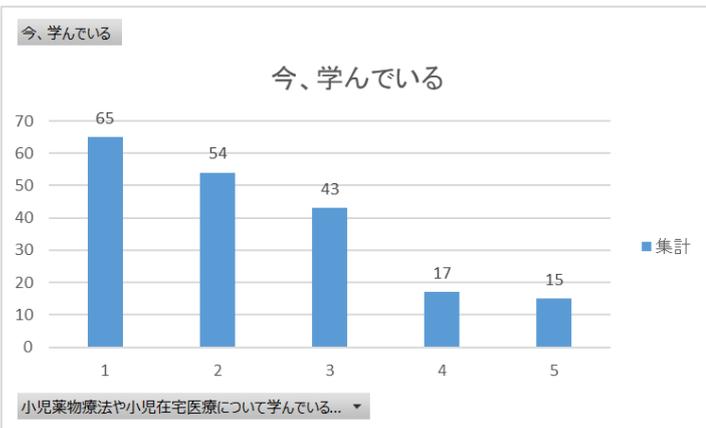
1) 小児在宅医療について学びたいか (1. 思わない～5. 思う) : 前後比較



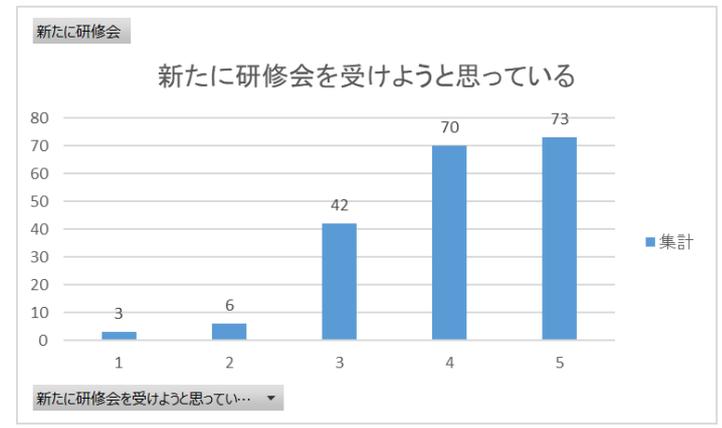
●学びたいと思う (4, 5の合計) の割合

前：44+77=121 (62.3%) ⇒後：81+75=160 (82.5%)

2) 小児在宅医療について現在学んでいる (研修前)

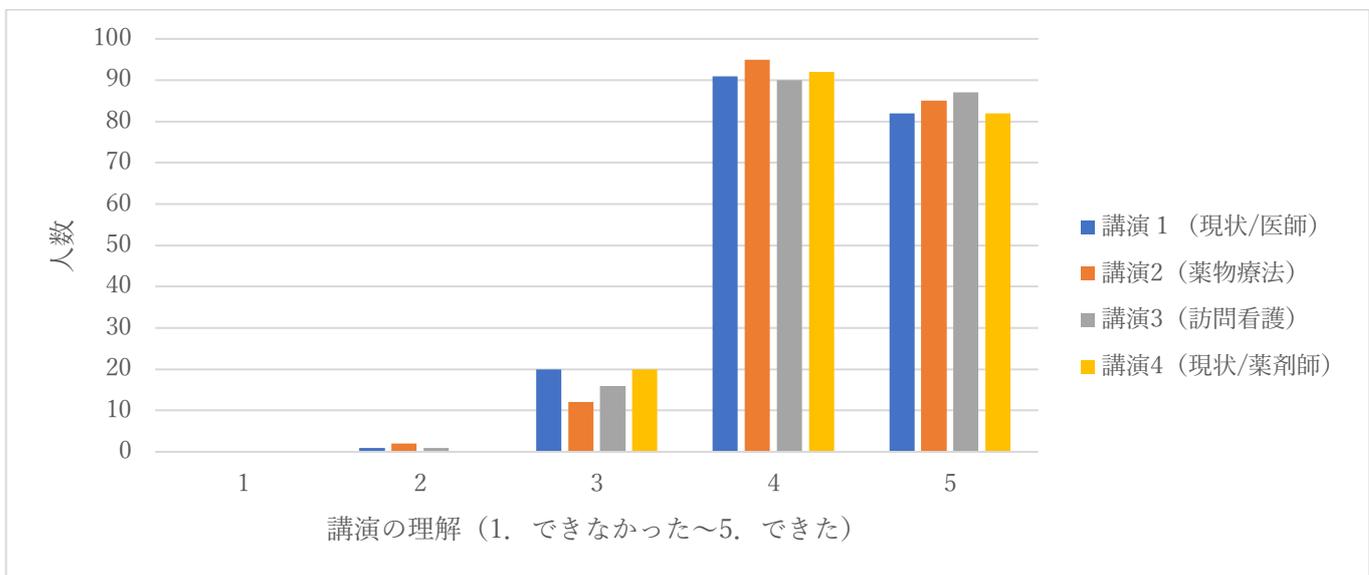


3) 新たに研修を受けようと思う (研修後)

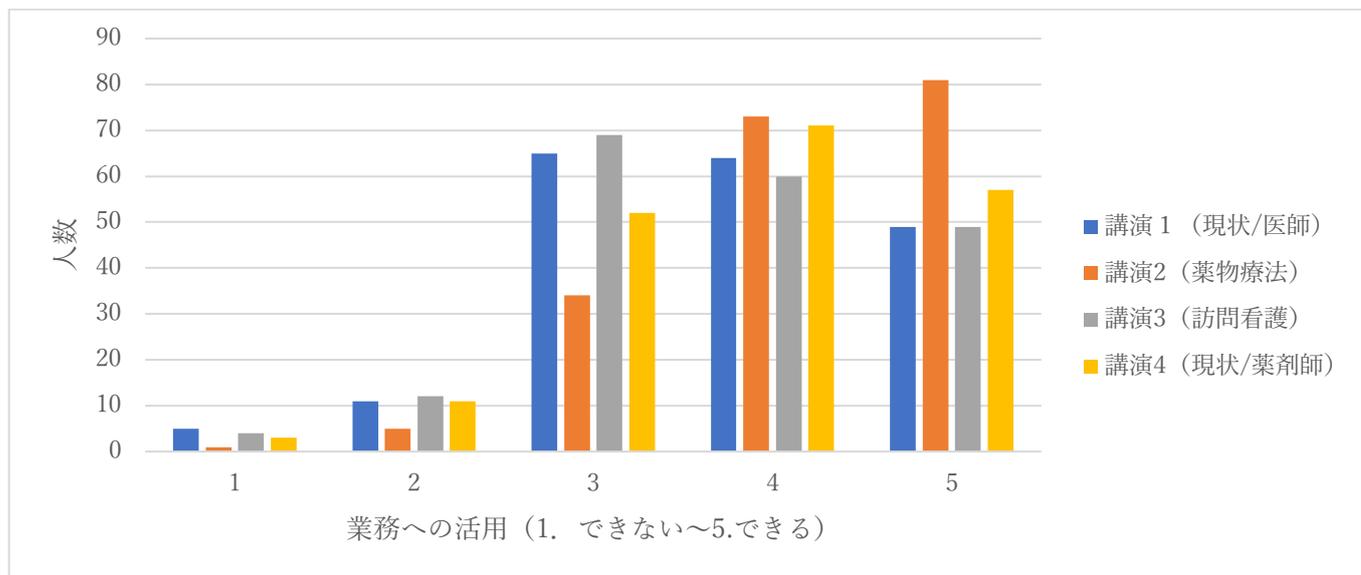


研修後の新たに研修を受けようと思っている割合 (3～5の合計) 42+70+73=185 (95.4%)

4) 研修会の理解度

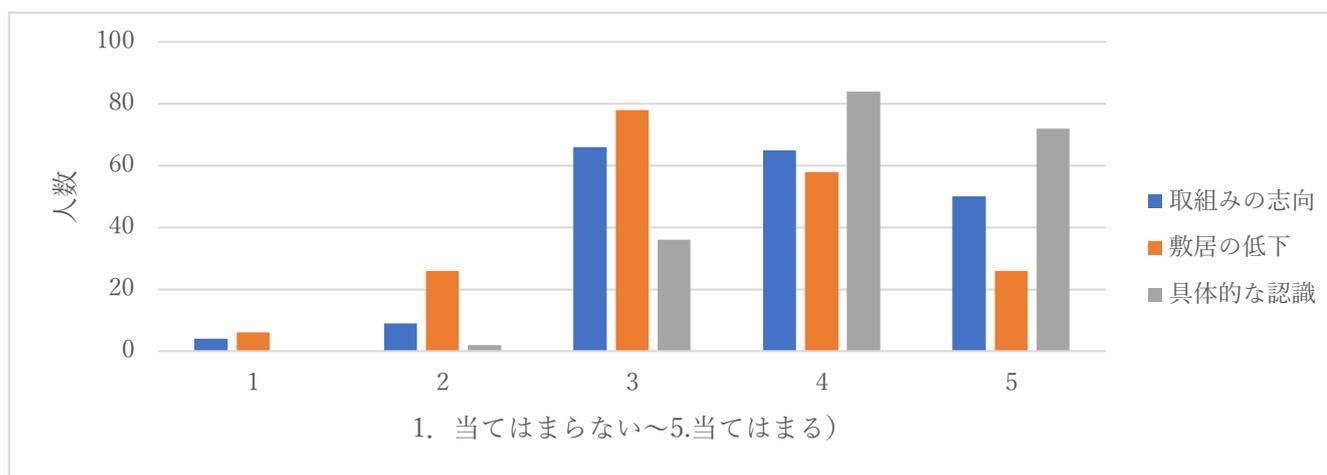


5) 業務への活用



6) 研修会による意識の変化

①前向きに取り組みたいと思う ②取組みに対して敷居が下がったと思う ③薬剤師の関与が具体的に認識できた



7. 研修会の評価 (小児在宅医療への関与の違う3グループ間)

「関与なし」: 小児在宅医療には関与していない

「調剤のみ」: 小児在宅医療の調剤のみ行っている

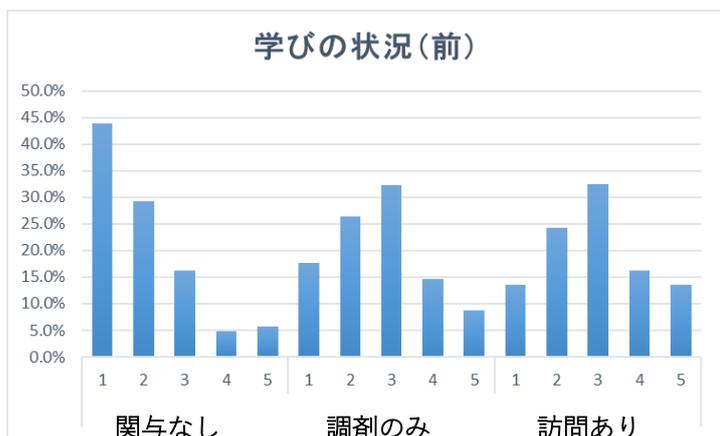
「訪問あり」: 訪問を含む小児在宅医療を行っている

1) 小児医療について学びたいと思っている



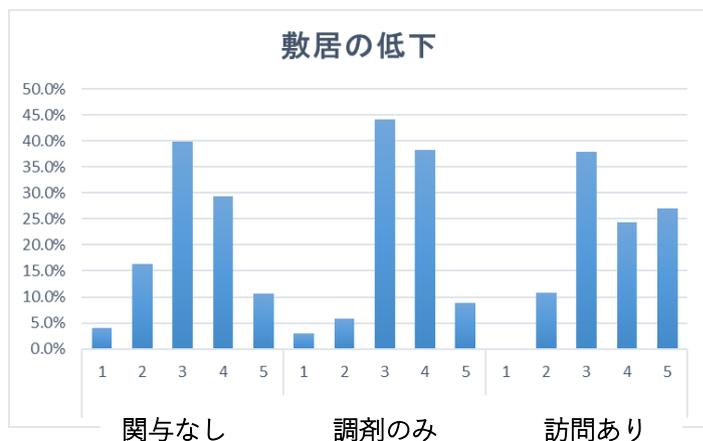
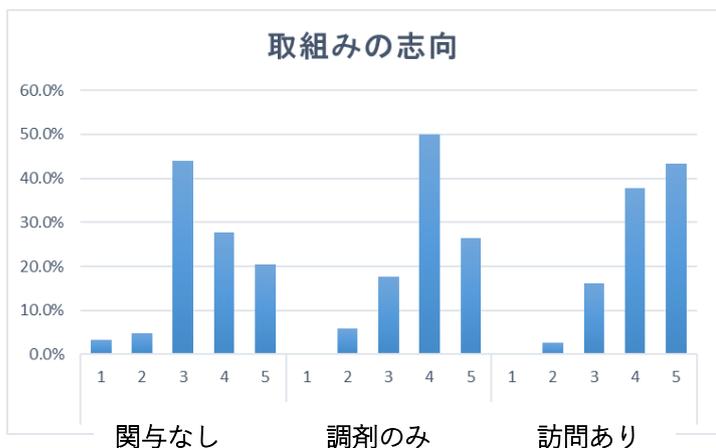
2) 小児薬物療法や小児在宅医療について学んでいる

3) 新たに研修を受けようと思っている

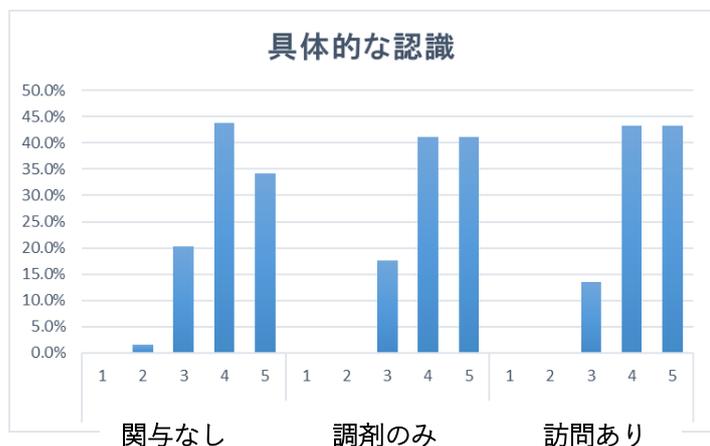


4) 小児在宅医療に前向きに取り組みたいと思う

5) 小児在宅医療の取組みに対して敷居が下がったと思う

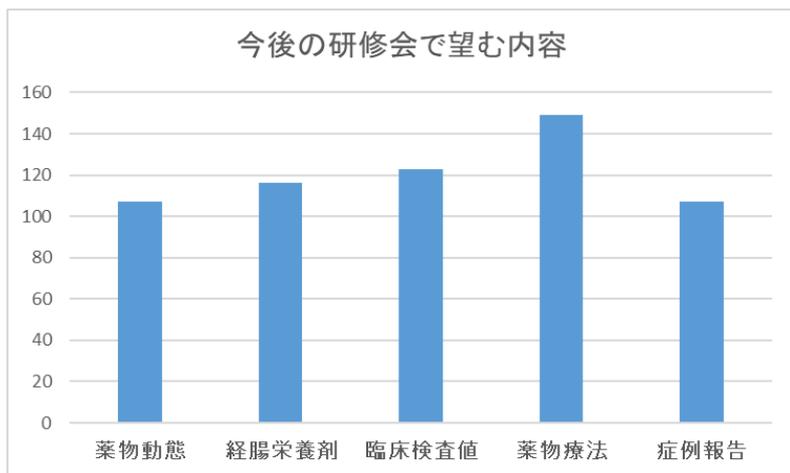


6) 小児在宅医療への薬剤師の関与が具体的に認識できた



8. 研修会への要望

1) 小児在宅医療の講習会で望む内容（複数回答）



2) 今回の研修会に対する意見 要望 感想

- あおぞら診療所の医師の講演時間をもっと長めにしてほしい。医療的ケア児の薬物療法について専門医から聴く機会はないのでまた新たに機会をつくって欲しい。
- 現場の薬剤師さんの話、また医師の話をもっとお伺いしたいです。
- 実施している医療人からの話は本当にためになる。小児患者とその保護者へのアプローチの仕方があるといいと思う。また、薬局側の問題としては、どのくらいの覚悟で臨めばよいのか、薬局内の薬剤師スタッフのモチベーションや会社の意向も踏まえて、高齢者の在宅/訪問とは別物として考えていけないといけないと思った。
- 貴重なご講演 ありがとうございました。小児在宅医療 医療的ケア児をとりまく現状を知ることができ、3時間がとても短く感じました。続編等ありましたらまた参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- 仲根先生のお話が実践的で非常に参考になりました。さらにそこから現場のテクニックを今後教えて頂けると助かります。調整したHPNのご自宅での保管の工夫とか、実践的な現場の情報を教えていただくと助かると思います。
- 3時間30分の研修会で5分休憩は短く感じました。せめて10分程度の休憩があると助かります。
- 現状関わりが薄いがとても活かせる部分が多かった。他職種連携をもっと知りたいです
- 継続的に行ってほしい（次回の予定をメールでアナウンスして頂けると助かる…県外なので）
- 薬局を含め医療機関がどのように小児在宅医療に関わっているか具体的に知ることができとても勉強になりました。
- 貴重な講演をありがとうございました。小児在宅に関して積極的に関わっていただけたらと思い受講しましたが無菌室がないのがハードルの一つになります。共同利用先も見つかりません。このような薬局が少なからずあることをご理解いただきたいです。
- 小児薬物療法認定制度に興味を持ってました。
- かかる費用、薬剤師の人数、働く薬剤師の負担でやりがいと使命感だけでは対応できない。今回の報酬改定で現場を厚くする経営者が増えることを望みます。
- 医療の発達に伴い、今後も医療ケア児はさらに増えてくると思います。勤務している薬局ではその需要が今のところないですが、必要とされることがある場合は出来る限り応えたいと思います。しかし急に取り組むことになっても、知識不足で手探りのことばかりです、知識のある薬局の方にすぐ相談できる体制があれば良いなあと思います。ハブ薬局的なものがあればありがたいです。
- さまざまな職種の方からお話しいただき多角的に捉えられるようになったと思います。ありがとうございました。認定薬剤師目指してみようと思います。
- 高齢者だと多方面からの情報が寄せられ介入という感じがありますが、小児医療に関しては待つスタイルなのかな？と感じました。

- 小児在宅医療に以前にかかわったとき、如何に消極的だったかを反省しました。子育てを経験した者として、介護者の負担と病児の成長に目を向けると言う当たり前のことに、**気づけないと言うより、目をつぶっていたかもしれません。**
- 益々ハードルが上がった気持ちです。必要性和期待は重々伝わりましたが、**現状業務への負担と患者への責任を継続的に果たして行けるのか？**
- 小児在宅医療は難しい、薬剤師は、介入しにくいものと思っていましたが、**少し壁が低くなった**気がしますその他の患者さんと同様、まずはご本人、ご家族に寄り添うことから始めたいと思います
- 今後在宅訪問は増えていくと思うので、現在関わっている様々な立場の方の話を聞いて良かった。**小児科の処方せんはなかなか持ち込まれない**上に在宅訪問は高齢者しか行ったことがないが、いつか小児在宅の依頼が来た時のために今学んで知識を備えておこうと思う。
- 直接業務には関連しないが在宅小児医療の現場を知ることができて良かったです
- 現在の**業務では関わることは難しい**ですが、実際の現場を知ることによって参考になることが多くありました。
- 小児科の在宅に昨年から関わるようになったのですが、薬用量含め、患者様との関わりに悩んでいましたが、前進できそうです。ありがとうございました。
- 医療的ケア児に**関わることはありませんが**、保護者へのサポートの重要性など、考えさせられる内容でした。これからはもっと積極的に服薬指導をしていきたいと改めて思いました。
- 現在の業務では、なかなか**この研修を活かす機会はない**のですが、系列店に小児科もあり、今後、役に立つ機会もあると思います
- 当薬局では、**患児の対応が今までございません**。本日お勉強させて頂きましたことで、多種連携と訪問薬剤師としてのスタンス、業務がわかりました。今後に役立てて参ります。ありがとうございました
- 他職種の方が薬剤師に期待することが聞けて良かったです。
- 単に薬を用意するだけでなく、患者さんさんの生活や家庭を考えて対応していきたいと思いました。
- 医療的ケア児の医療の現状、患児及びその保護者へのサポートの重要性、薬剤師の役割等が学べてよかったです。
- 勉強になりました。
- 講師の皆さま全員が実際の症例を含め分かりやすい言葉で紹介して下さったので、話が聞きやすくあっという間の3時間余りでした。
- 今後小児在宅に関わる時に役立つ内容でした。ありがとうございました。
- とても勉強になりました。高齢者の在宅とは視点を変えて関わっていくことを学びました。ありがとうございました。
- 今回の研修会が有意義なものとなるよう、実際に受けている医療ケア児について薬局内で討議していきたいと思いました。
- どの講演もわかりやすく大変勉強になりました。
- 小児在宅について知る事ができて良かったです。また機会があれば研修会に参加したいと考えます。
- 高齢者と違い、この先の人生も視野に入れた支援が必要なのだという事を改めて知ることができました。
- 日本における現状や現実を少し、理解できたかと思えます。日々、勉強していきます。ありがとうございました。
- とても参考になりました。
- これから在宅になる小児にいるため、ためになる話を聞いて参考になりました。
- 成育医療の概要がわかった。
- 小児在宅医療が高齢者の在宅医療と違って、未来を向いていることを学びました。
- 医療的ケア児やご家族を地域で支えていくことが大切なことがわかりました。
- 大変参考になった
- 成育基本法に薬剤師と医療関係との連携重視が盛り込まれていて力強く感じました。

5 考察

① 小児在宅医療における地域での医療機関-薬局間連携体制の構築

結果として基幹病院に情報共有ツール（MCS）を導入してもらえず連携体制の構築ができなかった。

すでに地域で導入の進んでいる緩和領域の医師から導入の必要性について理解いただいているので、小児科領域で地域と繋がる必要性も医師からは理解が得られている。

大学病院と地域がつながる事で、今まで難しかった連携が広がると考え、情報共有ツールを活用してもらうことで、連携がスムーズに行くと考え事業を計画した。

導入には前向きに検討いただいている状況なので、導入にいたらなかった原因が、病院のシステム上の問題であれば、事業終了後も、目的達成のため話し合いは続けていくことになった。

大学病院とのシステム構築には、短期間では達成できない結果となった。

② 小児在宅医療研修会

アンケート結果から、受講者のおよそ2/3が小児在宅医療の経験がない、薬局の小児在宅医療の関与がない者であった（回答者属性）。薬局で小児在宅医療に関与していない者の在宅に取り組まなかった理由（Q5-1）として、「依頼がない」「無菌調剤の設備がない」の次に「経験不足」「知識不足」があげられている。

研修会の評価として、「小児在宅医療について学びたいか」（Q6-1）の問に対して、「学びたいと思う」の割合は、回答者全体で研修前63.3%から研修後82.5%に上がっている。学びの状況として、研修会前の「現在学んでいる」（当てはまらない1～当てはまる5）（Q6-2）は、1→5へ右肩下がりであるが、研修会後の「新たに研修会を受けようと思っている」（当てはまらない1～当てはまる5）（Q6-3）は、1→5へ右肩上がりである。「研修会の理解度」（Q6-4）及び「業務への活用」（Q6-5）では、すべての講演に対して理解が得られ業務への活用も期待できるものと推測される。また、小児在宅医療への関与による比較においても、どの群においても同じ傾向であった。これらのことから、本研修会は、小児在宅医療に関する研修会として適切に実施できたものとする。

今後、研修会の内容が実務に活かされているか検証を行う予定である。

6 今後の課題及び展開

小児在宅医療における地域での医療機関-薬局間連携体制の構築については、会議を継続させ、情報共有ツール（MCS）を導入の上で、連携体制を構築する。基幹病院での導入が進めば、当初予定していた受け入れ薬局の増加につながれると考える。

アンケートの結果から研修会については、継続して開催し、学びの場を設ける必要がある。内容は薬物治療だけでなく、小児特有の事情等もあり、実際に関わっている現場の薬剤師の事例発表は、受講者の多くに参考になった。また、事例発表だけでなく手技や小児特有の処方箋の読み方など実技を伴う研修も今後は開催する。

また、今回の研修会の内容が実務に活かされているか確認のため、令和4年4月に研修後アンケートを実施する。この結果を次回研修内容を検討する材料とし、さらに、3つのアンケートを解析し、学会等で発表をする予定である。

令和3年度成育医療分野における薬物療養に係る連携体制構築推進事業

小児在宅医療における薬物療法の多職種連携事業

一般社団法人 埼玉県薬剤師会

オンライン研修

令和3年度成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業 小児在宅医療研修会 次第

日 時 令和4年2月11日（祝・金）9：30～12：45

（敬称略）

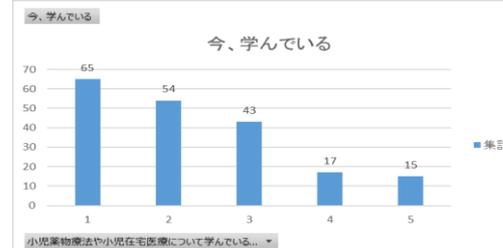
司会：埼玉県薬剤師会 地域医療推進委員会委員 角田 多恵

- 1 開 会
- 2 あいさつ 埼玉県薬剤師会 副会長 畑中 典子
- 3 内 容
 - (1) 成育医療分野における薬物療法等に係る
連携体制構築推進事業について（10分）
埼玉県薬剤師会 常務理事 池田 里江子
 - (2) 小児在宅医療の現状と問題点（60分）
子ども在宅クリニックあおぞら診療所墨田 院長 戸谷 剛
 - (3) 小児薬物療法における注意点（60分）
明治薬科大学 教授 石川 洋一
 - (4) 小児在宅医療に係わる訪問看護師の現状（20分）
ひだかK&F訪問看護ステーション 木之下 健太郎
 - (5) 小児在宅医療に係わる薬局薬剤師の現状（30分）
サン&グリーン薬局 中根 直子
- 4 閉会

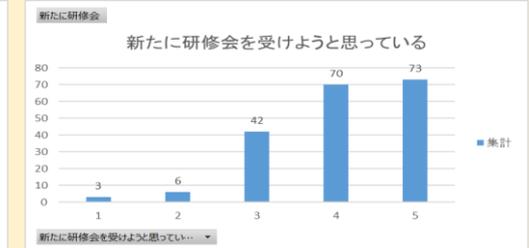
●学びたいと思う（4、5の合計）の割合

前：44+77=121（62.3%） ⇒ 後：81+75=160（82.5%）

小児在宅医療について現在学んでいる（研修前）



新たに研修を受けようと思う（研修後）



※ 2カ月後に研修内容が実務に活かされているかアンケートを実施する

MCSによる情報共有



現状

大学病院もMCSを導入参加することにより、入院時、退院時情報の共有がスムーズに行われる



導入参加へのアプローチを続けている

入院先大学病院